



北本市立南小学校だより

# わかみどり

URL <http://minami.city.kitamoto.lg.jp>

令和8年卒業式

〒364-0032

北本市緑3丁目387番地

TEL 048-591-4709

FAX 048-591-5802

学校教育目標 **みんな なかよく みどりの学校** 「かしこく げんきな 南っ子」

## 令和7年度 第59回卒業証書授与式 式辞

校長 酒井 一昭

3月24日(火)、北本市立南小学校第59回卒業証書授与式を無事に行いました。卒業した6年生は、この4月から中学校という新天地での新しい生活へと踏み出します。卒業後も豊かで実り多い日々を過ごしてください。校長式辞を紹介します。



柔らかな春の日射しを浴び、桜のつぼみもふくらみを増した今日の佳き日に、本校第五十九回卒業式が挙行できますこと、心から感謝申し上げます。

さて、小学校六年間の課程を修了し、本日、南小学校を巣立ち行くの卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは六年間の小学校生活を立派にやり遂げ、素晴らしい思い出をたくさん残して、今、飛び立とうとしています。

六年前、皆さんはお家の方に手を引かれ、今では小さく感じるランドセルを背負い、小学校に入学してきました。雨の日も風の日も、暑さにも寒さにも負けず、学校に通って、勉強や運動に励み、心も体も大きく成長しました。

特に、最後の一年間は、登校班の班長や縦割活動のリーダーとして下級生をリードし、委員会やクラブ活動などで最高学年として責任を立派に果たしてくれました。運動会の応援合戦では、応援団長を中心にまとまり、気合いの入るたくましい姿を披露し、みんなで団結することの素晴らしさを見せてくれました。また、市内球技大会や市内体育大会でも一生懸命練習に励み、素晴らしい成果を挙げてくれました。皆さんの活躍する姿が全校の誇りとなり、目標となりました。

そんな素晴らしい活躍をしてくれた皆さんも、4月からは中学生になります。卒業にあたり、皆さんに二つのお願いがあります。

一つ目は、「元氣なあいさつ 思いやり 人に優しく みんなのために」という言葉を心に止めておいてください。

この4つの言葉は、皆さんが生きていく上で、とても大切なことです。私たちは一人で生きていくのではありません。いつも人とのかかわりの中で成長し、支え合って生きていくのです。今、皆さんの周りにいる人たち、そして、これから出会う人たちを大切にしてください。これからは、自分のためだけではなく、人のために何かをしてあげられる人物になってください。弱い立場の人や困っている人に、優しく手を差し伸べ、夢や希望、勇気や元気を与えられる人になってください。相手を思いやり、人に喜んでもらえる生き方ができる人こそ、本物の幸せを手に入れる人となるはずですよ。

二つ目は「努力をあきらめない」という強い気持ちをもってください。

皆さんはこれまでいろいろなことに挑戦し、数多くの壁を乗り越えてきたことと思います。しかし、なかには、うまくいかず、悩み、立ち止まったりしたこともあったことでしょう。これからの人生においても、自分がしたいことの何かも成功するとは限りません。一生懸命やってもうまくいかないこともあるでしょう。悔しくて涙するときもあるでしょう。大事なことは、その時に、誰かのせいに、何かのせいにしてしまわないことです。まだまだ自分の努力が足りないのだ、と考えて前を向いて歩み出すことが大切なのです。

物理学者で二十世紀最大の天才と言われている「アルベルト・アインシュタイン」を知っていますか？彼は次のように言っています。

「天才とは99%の努力と 1%のひらめきである。」

天才と呼ばれている人も、輝かしい業績の裏には、血のにじむような努力があるのです。常に謙虚に人の何倍もの時間をかけて、研究に取り組んできたのです。失敗の連続であっても、努力と工夫を重ね、突破口を見つけ、成功に結びつけてきたのです。「努力を続けることの大切さ」を忘れずに、自分の夢に向かって大きく羽ばたいていってください。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子さまが立派に小学校を卒業されますことを心よりお祝い申し上げます。小学校卒業という節目を迎えられ、これまでのご苦勞も大きな喜びに変わっていることと存じます。この六年間、本校の教育活動に格別のご理解とご協力をいただきましたことを、全教職員とともに感謝いたしております。これからも、お子さまが健やかにたくましく成長されますようお祈り申し上げます。

また、ご来賓の皆様にはご多用の中、ご臨席を賜り、心よりお礼申し上げます。卒業生へのこれまでのご厚情と本校教育へのご支援に対して、今一度深く感謝申し上げます。

名残は尽きませんが、卒業生の皆さんの輝ける未来に幸多からんことをお祈りして、式辞といたします。